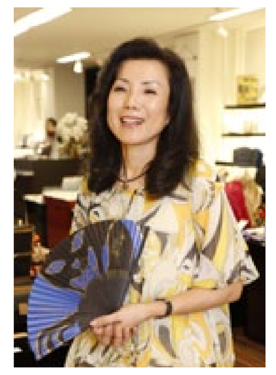
きょうのLifenavi

絵や芸術は、おやつのように生活をほっこりさせてくれる

写真：打田浩一



naviGator
河村能舞台
河村 純子さん

PROFILE
福岡出身。同志社大学文学部卒業。
故 河村信重(観世流シテ方 重要無形文化財保持者)と結婚後、河村能舞台の運営に携わり、「女性のための能を知る会」を20年近く続ける。初心者向けの「能楽おもしろ講座」を平成8年より開始。池坊文化学院教員。NPO法人能楽普及協会理事。

600年以上の歴史を持つ古典芸能「能」の中にある「トコトン頑張る」や「ノリがいい」という現代の言葉のルーツを語ることで若い世代の気持ちをつかむ能楽のナビゲーター。パブリックな空間に描かれた壁画に想像力に委ねる自由という「能」との接点を感じるという河村純子さんに、生活を豊かにする「文化」について伺いました。

「木村さんの絵というのは、ユーモアがあって、ちょっとほっこりする絵」という京都市動物園のゴリラの壁画
左京区岡崎法勝寺町岡崎公園内

コンセプトは面白く楽しく

「子供が小学生の時に描いた鬼の絵を節分に飾ったり、季節によって設えや絵をちょっと変えるのは、心の栄養ですよね。文化って目には見えないけれども、おやつのようなもので、食べないと死んじゃうわけではないですが、ちょっとほっこりしたり、人と人との間をつないだりとか、私たちの心には必要で、生活を豊かにしてくれるもの」という河村純子さん。河村さんが案内役を務める「能楽おもしろ講座」は、短いコーナーがスピーディに展開していき、修学旅行生や能を知らない人たちも飽きることなく楽しめることから人気を博しています。「私のコンセプトは、面白く楽しくなんですよ。だけどその中に、いわなくてもお能の中の厳しさとか気迫とかを感じてくれている」という河村さん。1時間余りのワークショップを終えると、来た時はだらけていた生徒たちが一斉に正座して「ありがとうございました」と手をついて挨拶してくれるようになるといいます。

想像力に委ねる自由

「絵でも映画でもそうですが、自分のイマジネーションを超えたものと出会った時に、人は驚いたり新鮮な喜びを感じたりするじゃないですか。木村さんの絵と出会った ↖

↙ のは、動物園のゴリラ舎の壁画ですが、ゴリラが正面だけでなく、横や後ろを向いていたりするんです。そうすると向こうの景色が見えてくるんです」。河村さんは、木村氏のゴリラを動物園ではなくてジャングルで暮らしていて、ストーリーが見えるような絵といいます。また京都国際工芸センターの絵は「階段を上がっていくに従って螺旋を描いて天に昇っていく感じなんです。地にあるものから、宙を舞うものまでが飛翔していくイメージがあって面白い。描かれている場所も、お客さんが通る通路でしょ。本来、部屋に描かれるべきものがこういうところに描いてあるというのも、ちょっとおしゃれというか、面白いと思いました。ゴリラも忠実に描いたものではないし、『お能』もそうなんですよ、いらないものを削ぎ落としていって、想像力に委ねている部分が非常に多いし、空間がすごく多いんですよ。木村さんの絵も余白部分がすごく多いことで、人のイマジネーションをかき立てる。階段の絵でもそうですが、この空間を見る人がどんな風にも想像できる。自由さが許されてるというか、そ[illegible]パが広いですね。そういう意味では共通点があるかもしれませんね」

出会いが人生を深くする

かつて能の鑑賞会で学生たちの退屈した顔に、このままでは能を見る人たちがいなくなるのではと思い「能楽おもしろ講座」をスタートさせた河村さん。今では年間に100〜120校の修学旅行生が受講するほどですが、最初は集客方法もわからず苦労したとのこと。縁があり旅行代理店を紹介されたことがきっかけで、今日があるといいます。そんな河村さんにとっての豊かな生活とは？

「人との出会い、その人を通して聞いた言葉が、私の人生を深くしてくれるように思います。人への思いやりが伝わってきたり、思いがけない発見があったり、出会いと言葉はとっても大切ですね。また今、生きている私たちは600年前の経験はできないわけですが、能を見るわずかな時間、その空気の中にいて、その世界に魂を遊ばせることができれば、これほど贅沢なことはないでしょう」

Kimura Hideki
木村 英輝

PROFILE
京都市立美術大学卒業後、数多くのロックコンサートのプロデュースを手掛ける。国際伝統工芸博、世界歴史都市博、建都1200年記念広場のプロデュースを手掛け、還暦を迎えてから「壁画」製作に取り組む。「僕は美術館に飾る絵ではなく、たくさんの人が集まる空間に、息を感じる、生きている絵を描きたいと思っている。だから動物園はぴったりだった」と語る。

木村氏の作品やTシャツ、扇子、手拭いなどのグッズを扱う「キーヤンスタジオ」が祇園石段下にオープン。

東山区祇園町北側292-2 http://www.ki-yan.com

河村さんが「階段という螺旋を上がっていくような絵」というWAZA GU(京都国際工芸センター)の絵はFestive Steps(賑わいへの階段)と名付けられている
中京区高倉通三条下ル丸屋町165
URL http://www.5.plala.or.jp/waza-gu/

Kawamura nou butai
河村能舞台

PROFILE
初心者向けの体験・参加型プログラムとして「能楽おもしろ講座」は、修学旅行生を始め受講者は今までに12万人を超え、昨年だけで2万人以上が受講。学校、企業研修、サークルなど団体向けに開催している。また定期能「河村定期研能会」や社中の発表会等を行っている。

上京区烏丸上立売上ル柳図子町320-14
TEL：075-722-8716
FAX：075-722-8717
http://www.kid97.co.jp/kawamura
「能楽おもしろ講座」のお問い合わせは上記TELへ、または上記HPをご覧ください。

きょうのLifenavi

「旅」navi

「国宝 阿修羅展」帰山記念
興福寺国宝特別公開2009「お堂でみる阿修羅」

創建1300年を迎える奈良・興福寺で「国宝 阿修羅展」が開催されます。八部衆と十大弟子の天平乾漆像14躯が、仮金堂に展示され、国宝の像を見ることができる絶好の機会です。特に人気の高い阿修羅像は、6本の腕と少年のような3つの顔を持ち、静かに自分の心を見つめ懺悔する可憐な姿は、見る人の心を安らかにしてくれます。東大寺大仏殿の見学、奈良公園の散策も楽しめます。

四条大宮(8:00)—京都駅(8:20)—大久保駅(9:00)—興福寺(約130分滞在)—昼食—東大寺(約120分滞在)—大久保駅—京都駅—四条大宮(17:00頃)

旅行代金：お一人様8,500円(昼食・拝観料・入場料を含む)
コースNo.9632 出発：11月9日(月)
募集人員：42名 最少催行人員：30名 添乗員同行
＊申し込み多数の場合は募集を84名にさせていただくことがあります。

日生漁港 写真提供：備前市観光協会

おだやかな瀬戸内海・日生で楽しむ
みかん狩り食べ放題と歴史の島・鹿久居島

岡山県・日生(ひなせ)の瀬戸内海に浮かぶ鹿久居島(かくいじま)は、周囲28kmの岡山県最大の島です。野生の鹿・アオサギ・キジが多く生息する野生動物の宝庫で、温暖な気候を利用してみかんの栽培が盛んです。みかんは、有機栽培で濃い味が自慢。海を見ながらほおばる、もぎたての味は最高です。また縄文時代の遺跡が現存することでも知られており、歴史の島をゆっくり散策するのも楽しみの一つです。日生では、海産物市場「五味の市」で買い物ができます。

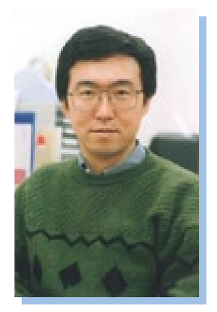
四条大宮(8:00)—京都駅(8:20)—日生港〜鹿久居島(みかん狩り・昼食・散策／約150分滞在)〜日生港—加子浦歴史文化館(約30分滞在)—自由に五味の市で買い物や楯越山ハイキング(約80分滞在)—京都駅—四条大宮(20:00頃)

旅行代金：お一人様9,900円(昼食・入場料・入館料を含む) コースNo.9633
出発：11月25日(水) 募集人員：42名 最少催行人員：30名 添乗員同行

お申し込み・お問い合わせ 旅行企画・実施 朝日旅行 国内旅行 TEL:06-6345-1613 受付時間：9時30分〜17時30分(土・日・祝休み)
※受付は10月5日(月)からです。※コースNo.をお申し出ください。※上記ツアーには朝日旅行の約款(募集型企画旅行契約)が適用されます。

「知」navi

講演
治癒力・免疫力を高める ～心と体の関係～



病気とどう向き合い、共存していけばよいのか。「心の治癒力」をとりあげ、心療内科医として豊富な経験を持ち、がんの緩和医療に携わっている講師が「治りたい」という気持ちが治癒力・免疫力にどう関わっているかなど、実態をふまえた話をします。

日時：11月15日(日) 13時～14時30分
講師：黒丸尊治(くろまる たかはる)(彦根市立病院緩和ケア科部長)
受講料：会員2,940円 一般3,465円

お申し込み・お問い合わせは
朝日カルチャーセンター・京都まで
TEL.075-231-9693

「季」navi

落鮎のかなしみ

高橋 和志

鮎のひっかけ漁は面白い。日本海に注ぐ由良川の上流は美山川と呼ばれる。カヤぶきの集落の奥で9月初め、友釣りの後に解禁されるというその漁を見た。

鮎突くや我が身を川に流しては

ウエットスーツの男達が竿を握り川に浮かぶ。竿の先には湾曲した針が4つ付いている。ジグザグに走る鮎を追うのではない。行く手をめがけ竿をふる。刺さると針の糸が伸びる。竿の仕掛けである。針の先が反り返っていないのも背を狙うのも、鮎を傷つけないためだ。川の上と下には網が張ってある。網と網の距離は次第に狭められる。

放られてくねる落鮎たもに受く

近くの芦生演習林奥の滴りに始まる川は、澄み切っている。岸近くに浸けた籠の中で獲物の大量の鮎が暴れている。蓋の板の上には重しの石が置いてある。金串を刺し岸の炭火で焼く。身離れもよく味は絶品であった。

東京のあるバーの若いマスターは鮎釣りが好きで毎年、解禁を待ちかねている。久々に行って、ひっかけの様子を話すと、「それはよくない漁なのではないですか」と声をひそめた。一網打尽で鮎が根絶やしになるのではないかと言うのである。

そうとは言えない理由がある。下流のダムのおかげで鮎は遡上できない。実はあのあたりの鮎は毎春、琵琶湖の稚魚を放流しているのだそうだ。わずかな期間であれほどまでに成長する。腹に卵をたくわえていても、産卵に川を下ることはできない。

燦爛と落鮎に錆さしにけり

話すうちに落鮎の美しさが目にうかび、生きもののかなしみがこみあげてくるようだった。

（前朝日新聞京都総局長）